

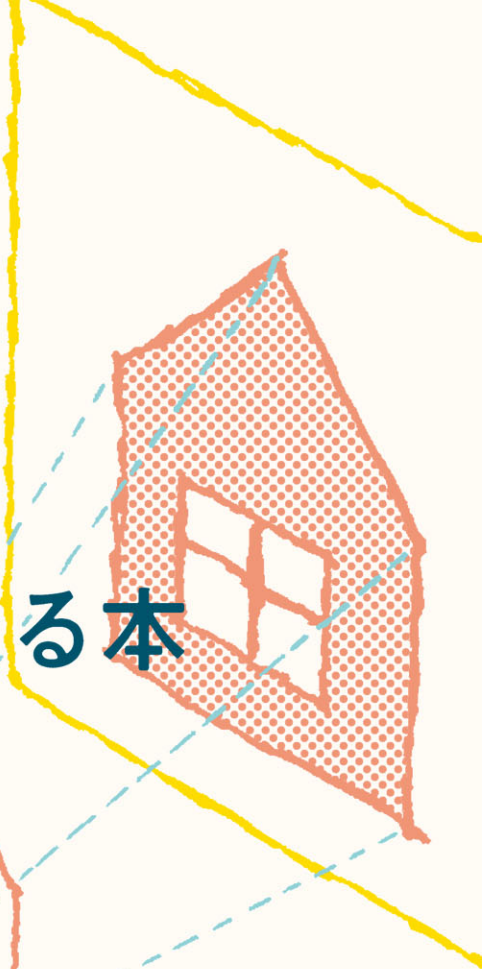
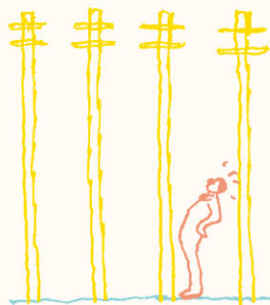
スケッチ感覚で パースが描ける本

中山繁信 著



適当なのに
きちんと見える！
図法のコツをおさえた
パースの描き方
教えます。

彰国社



まえがき

「スケッチ感覚ではじめよう！」

パースが苦手な人は少なくありません。ほとんどの人が苦手と言っても過言ではないかもしれません。パースは、遠近法という図法に基づいて描きます。しかし、その図法が複雑なため初心者には敬遠されがちです。

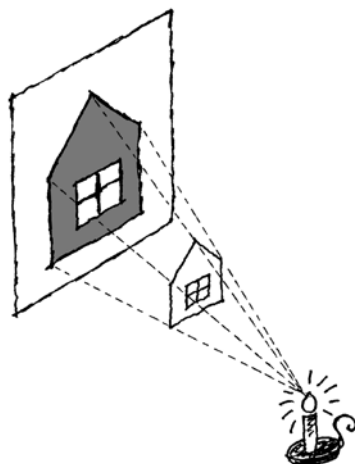
建築を学ぶ学生は、たいてい絵を描くことは好きだと思います。スケッチを描くときは、難しいことを考えず、気軽に紙の上で手を動かします。結構「適当に」線を描いています。このとき、ちょっとしたコツを意識すると、気軽に描いたスケッチも立派なパースになります。コツとは、消点があることを意識して描くこと。この本では「スケッチのように適当で」「コツをおさえた」パースの描き方を紹介しています。

また、人や樹、家具・照明などのインテリア、街並みやさまざまな建物の表現もこの本では詳しく述べています。表現力がアップすれば、パースを描くのがもっと楽しくなるはずです。

描くプロセスがわかるよう、4コマ漫画のように説明してみました。目で追っていくうちに、やってみようかな？ 自分でも描けそう！と思えばしめたものです。あきらめずにトライしてみてください。

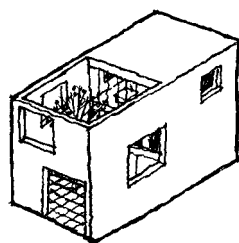
1章 パースの基礎

1. パースとは? 8
2. 消点とは? 9
3. パースの種類 10
4. パースと図面の関係① 11
5. パースと図面の関係② 12
6. 適当パースのすすめ 14
7. 適当パースで椅子を描く 15
8. 画面の位置で構図は変わる 16
9. 消点は構図のコントローラ 18
10. 構図のつくり方 20
11. 消点の数は? 22
12. 1消点と2消点の関係 23
13. 虫観図と鳥瞰図 24
14. 左右2点透視図で椅子を描く 25
15. 上下2点透視図で椅子を描く 26



2章 アクソノのすすめ

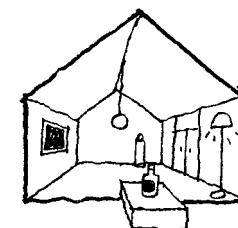
1. アクソノとは? 28
2. アクソノとパースの違い 29
3. アクソノで椅子を描く 30
4. アイソメで椅子を描く 31
5. アクソノで建物を描く 32
6. アイソメで建物を描く 33
7. アクソノで階段を描く 34
8. アクソノで丸いテーブルを描く 35
9. アクソノでらせん階段を描く 36



10. アクソノでインテリアを描く 37
11. アクソノの描き方で影をつける① 38
12. アクソノの描き方で影をつける② 39

3章 インテリアを描く

1. パースシートをつくる 42
2. パースシートを使って描く 43
3. 展開図からパースを描く 45
4. 平面図からパースを描く 46
5. パースに雰囲気をつける 47
6. 家具や窓の高さのとり方 48
7. 奥行きのある壁を分割する 49
8. 本棚を描く 50
9. キッチンの小物を描く 51
10. 吹抜けのある空間を描く 52
11. 斜め天井を描く① 54
12. 斜め天井を描く② 56
13. 円を描く 58
14. 丸いテーブルを描く 60
15. アーチを描く 62
16. ガラスの向こう側を描く 64
17. 階段を描く① 66
18. 階段を描く② 68
19. 階段を描く③ 70
20. 折れ階段を描く 72
21. 上下2点透視図のインテリア 74
22. 左右2点透視図のインテリア 76



4章 建物・街を描く

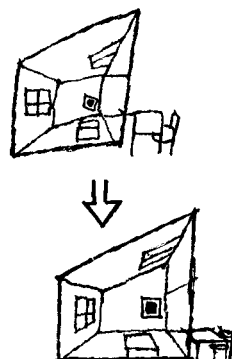
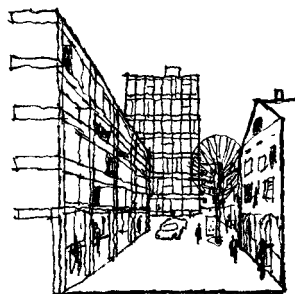
1. 立面図からパースを描く① 80

- 2. 立面図からパースを描く② 81
- 3. 遠近感を強調する 82
- 4. 勾配屋根を描く 84
- 5. 三角ビルを描く 86
- 6. 円筒を描く 88
- 7. 池に映った建物を描く 90
- 8. 鏡に映った建物を描く 92
- 9. 斜めに配置された建物を描く 94
- 10. 2点透視図で家を描く 96
- 11. 高い建物を描く 98
- 12. 坂道を描く 100
- 13. 曲がり道を描く 102
- 14. 人を描く① 104
- 15. 人を描く② 105
- 16. 樹を描く① 106
- 17. 樹を描く② 107
- 18. 車を描く 108
- 19. パースに影をつける 110

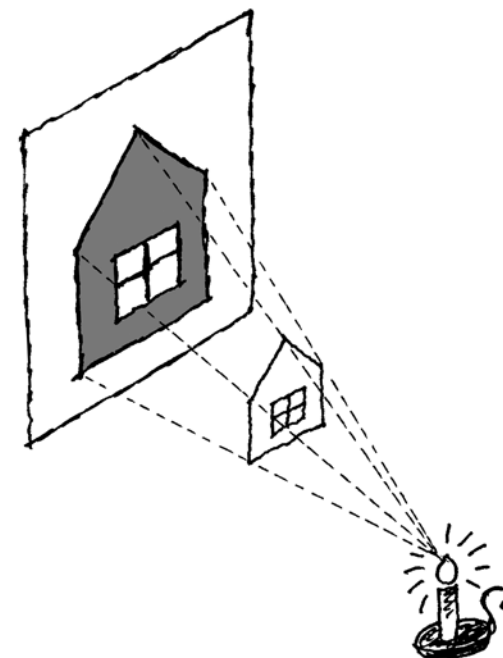
5章 パースの添削例

- 添削例① 路地のパースを描く① 114
- 添削例② 路地のパースを描く② 116
- 添削例③ 住宅の外観を描く 118
- 添削例④ 吹抜けのパースを描く 120
- 添削例⑤ 樹・人・車を描く 122

- おまけ 124
- あとがき 126

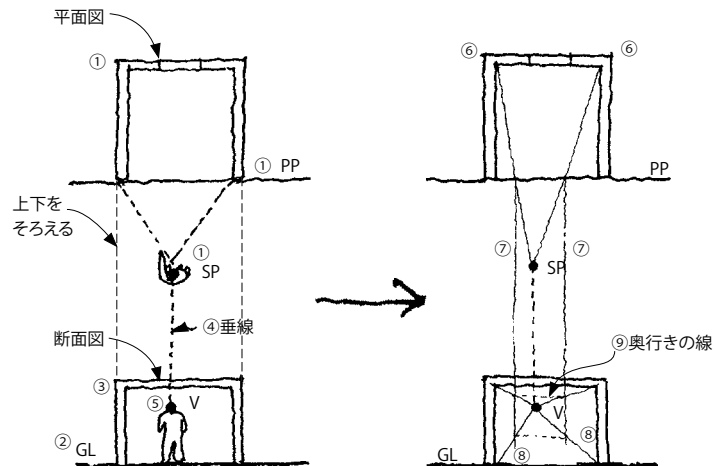
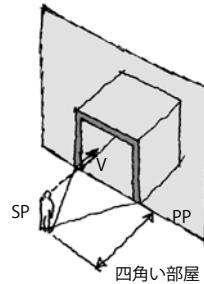


1章 パースの基礎



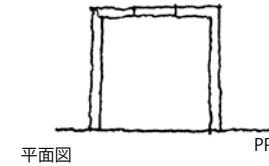
5. パースと図面の関係 ②

四角い部屋のパースを描く手順を説明します。このとき大切なのは、人の立っている位置 (SP: standing point) と画面 (PP: picture plane) の距離、そして断面図上に描かれる消点の位置と高さです。これにより表現されるパースの構図や大きさ、見え方が変わってきます。

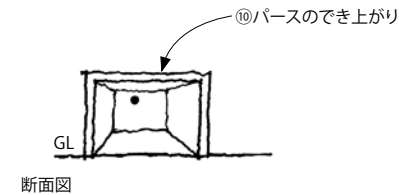


パースの描き方 (1点透視図)

- ① 平面図を描き、手前に画面PPと人の位置 (SP) を決めます (注1)。
- ② PPの下にGL (注2) を描きます。
- ③ GL上に、断面図を描きます (平面図と断面図はそろえます)。
- ④ 人が立っている位置 (SP) からGL側に垂線を下ろします。
- ⑤ 断面図の、④で下ろした垂線上の、人の目の高さに消点Vをとります (注3)。
- ⑥ 平面図の各点とSPを結びます。
- ⑦ ⑥で結んだ線とPPの交点から垂線を下ろします。
- ⑧ Vと断面図の各点を結びます。
- ⑨ ⑦で下ろした垂線と、⑧で結んだ斜線の交点を結ぶと奥行きが出ます。



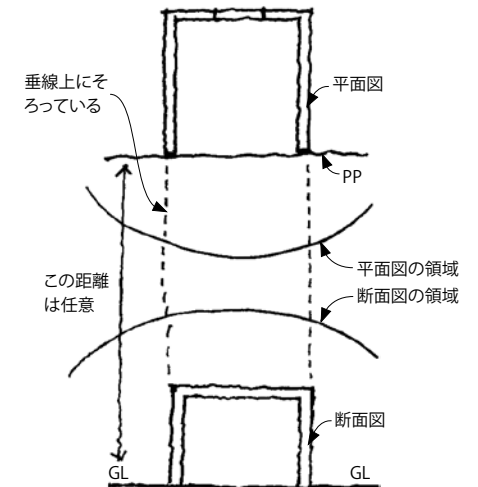
● SP



⑩ 立方体の部屋のパースのでき上がりです。

ここがポイント!

意外と理解されていないことですが、平面図と断面図は作図上離れていても近くても、でき上がるパースは同じです。大切なのは、PPとSPの距離、そして消点の位置と高さ (アイレベル) です。



注1: PP (picture plane) はどこに置いてもよいのですが、平面図とくっつけるとパースの間口、高さは図面の実寸をそのまま使えます。

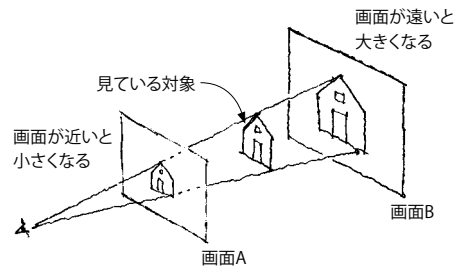
注2: GL (ground level) は地面の高さです。

注3: 目の高さをEL (eye level) といいます。実際の目の高さでもよいし、高い位置から見下ろしたければ高い位置にとります。

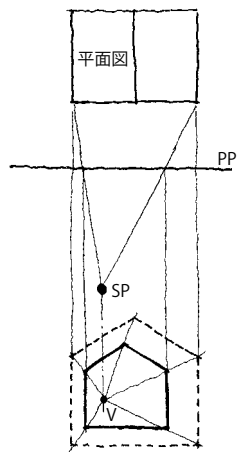
8. 画面の位置で構図は変わる

もう一度、パースの原理を思い出してください。

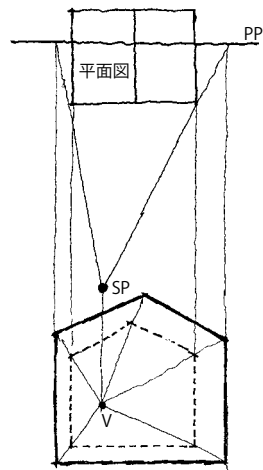
実際の建物の前に画面を想定し、画面に投影した図が透視図です。画面をもうひとつ、建物の後ろに置いた状態を想定してみます。スライドプロジェクターで映し出された像のように、建物の影が大きく映るはずですが、画面を置く位置によって図の大きさが変わります。その原理を説明したのが図Aと図Bです。



画面と見る位置の関係により像の大きさが変わる

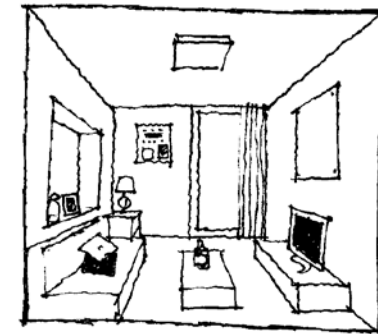


A (画面が近いと奥行きが深くなる)

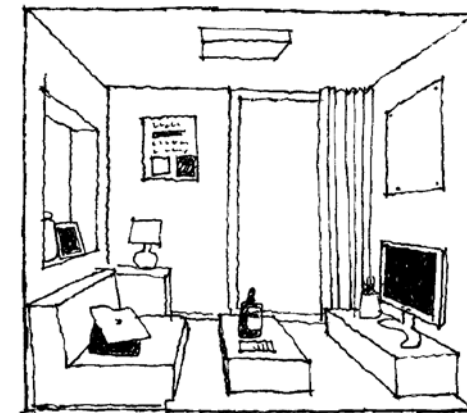


B (画面が遠いと奥行きが浅くなる)

下図は、図A、Bの原理で描かれたインテリアです。図AよりもBの構図のほうが画面が遠くにあるためパースは大きく描かれます。同時に、注意したいのは、Aの構図のほうが奥行きが深く強調されていることです。それは、SP（人の立つ位置）と関わっています。SPと画面の距離が近づくと遠近感が強調され、遠くなると、奥行きが浅くなり遠近感が失われていきます。



画面が近い場合 (Aの構図)

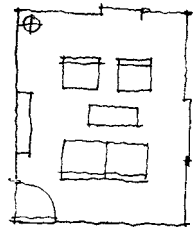


画面が遠い場合 (Bの構図)

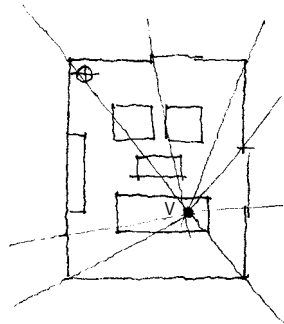
4. 平面図からパースを描く

このパースは室内を俯瞰した構図になるのが特徴です。平面構成や家具などの配置を立体的に表現するのに適しています。

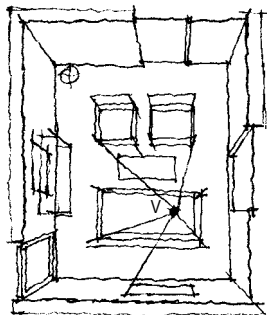
平面図は窓やドアの高さで水平に切ります。あまり奥行きを深くとると壁の部分が強調され、狭苦しいインテリアになってしまいます。



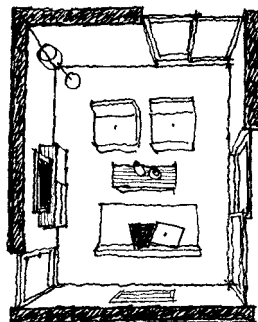
① 平面図を描きます。家具などを描き入れた図面がよいでしょう。



② 平面図の任意の位置に消点Vをとり、部屋の隅部や開口部の位置と結びます。



③ 床の位置を適当な深さにとります。奥行きを深くとりすぎないようにします。椅子やテーブルを描きます。

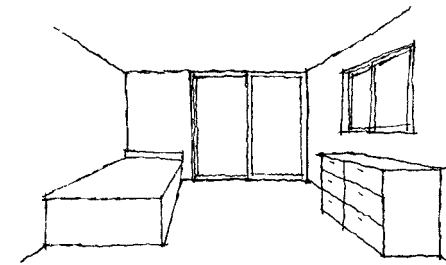


④ 壁の線を塗って完成です。

5. パースに雰囲気をつける

上の図はパースとして間違いはないのですが、ベッドと収納家具しかないため、生活感がなく殺伐とした空間です。

雰囲気のあるパースを描くには、家具、家電、壁に掛けた絵、照明、さらに時計や置物などを描き加えてみましょう。椅子や照明器具は写真やカタログを見てしゃれたデザインのものを描くようにしてください。漠然とろ覚えで描くと現実味がなくなってしまいます。



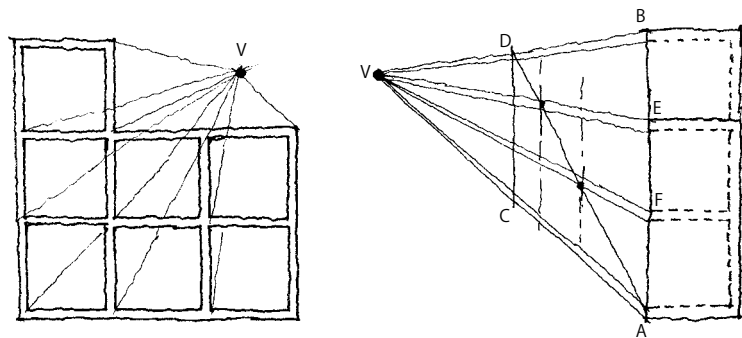
生活感のない殺伐としたパース



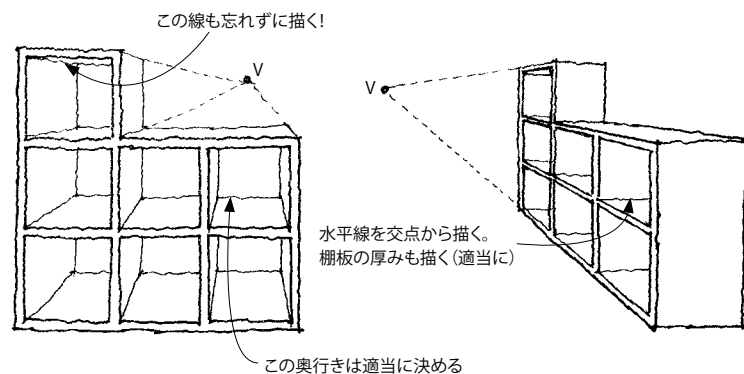
家具を描き入れ雰囲気を出す

8. 本棚を描く

本棚を描いてみましょう。左図は正面の展開図から描く比較的やさしい方法です。右図は側面の展開図から奥行きを出し3分割します。



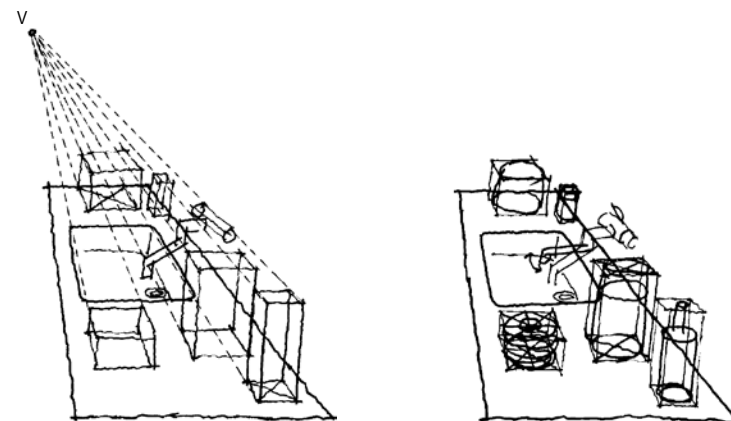
① 家具の展開図を描き、消点Vを任意の位置にとります(左は正面奥に、右は、側面に消点を任意にとった例)。各点とVを結びます。右図については、線CDで奥行きを適当に決めます。手前のAとDを結びます。E、FとVを結びます。EV、FVとADの交点に引いた垂線が棚の奥行きを3等分した線です。



② 棚の奥行きを自分の好みで適当にとり、棚板の厚みを描き込んで完成です。

9. キッチンの小物を描く

小物が描けないと悩んでいる人は少なくありません。複雑な形を描くコツを教えます。キッチンのシンクまわりの小物を描いてみます。



① キッチンのシンクの上の小物類を描くには、まずシンクの消点を探します。複雑な形の小物は、すべて四角い直方体、立方体と仮定してVを消点として輪郭を描きます。

② 立方体の中に、円筒や円錐の概略図を描きます。

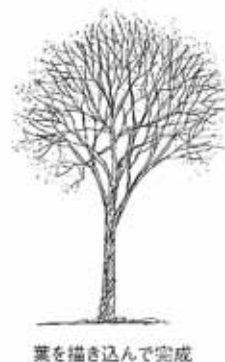
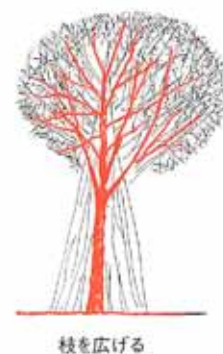
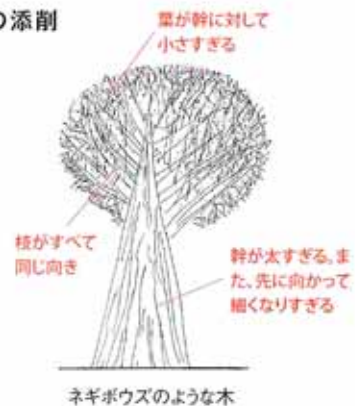
③ ポットやビン、お皿の形に整えてでき上がりです。



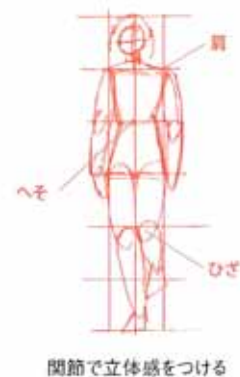
添削例⑤ 樹・人・車を描く

樹、人、車はパースの脇役ですが、表現が稚拙だと主役の建築が引き立ちません。初心者が描いた図を描き直してみました。

樹の添削



人の添削



車の添削

